



下田・本郷地域まちづくり会議ニュース第2号



「将来も持続可能な下田・本郷地域のまちづくりを考えよう」～実践活動へ向けての取組～

平成27年1月7日(水) 下田市役所大会議室



下田・本郷地域で活動や居住されている19名のまちづくり会議委員によって、今回は、前回決めた重要な3つの事柄についての、実現のための具体策を検討しました。

グループごとの成果 (Aグループ)

具体的には

方針 方向 (基本項目)	方針、方向を実現するために こんなものに取り組んでいきたい	取り組む主体			実施時期		
		行政	住民	企業	短期	中期	長期
1. 伊豆急下田駅前の 駐車場の確保	市役所跡地をバスターミナルとして利用し、上の階を商業施設兼津波避難タワーとして活用する						
	現在のバスターミナルの位置に、客待ち、駅の切符を買う時の一時停車スペースを確保する						
2. 観光(多国語対応) サインの導入	看板に観光と避難地等盛り込み一つにし太陽光充電のLED照明にする						
	・観光、建設、防災など課ごとに考えるのではなく、観光地なのでわかりやすい看板に統一したほうが良い。						
	・看板は照明があったほうが目について見やすい						
	・今の看板はおしゃれだが見にくい。夕方はなにも見えない。						
	・看板の地図がわかりにくく、インパクトがない						
	・まちなかの暮盤の目の形状は、わかりにくいので案内は必要						
	・中心市街地や駅への行き先(方向や距離)がわからない 旅行者に駅はどこか必ず聞かれる。						
	・史跡吉田松陰拘禁など、メイン通りから少し中に入ると方向がわからなくなる。						
	市民がお勧めする飲食マップは必要(飲食店を良く聞かれる)						
	駅前に見やすい大きな看板が必要(1と同じもの)						
3. 道路の改善	本郷地域住民の避難のために、寝姿橋のほかにもう一つ橋が欲しい。						
	まちなかは、昔ながらの道幅のため可能な限り今の幅がよい						
	・道路幅は良いが、シャッターの店(しもた屋)に若いやる気のある人に貸すようにする。						
	・どうして店を閉めたのか、理由を知って対応を考える						
	・東本郷は1年で8店舗やめた。(東日本大震災以降減少)						
	・東京電力の営業所も大仁へ統合された。人口減少の要因						
	・県国から出向の人は、休日になると実家に帰り地元消費がない						
	道路整備より下田に人が帰ってくる工夫(若者の働く場所) 家賃を補助、税制上の優遇措置により下田に住んでもらうことが必要						
	・下田に住んで働ける環境をつくる(IT関連、観光業、漁業、農業)						
	・ネットならばどこでも仕事ができる						
・教育が整うと人が来るので、教育をしっかりとる。							

グループごとの成果（Bグループ）

具体的には

方針 方向（基本項目）	方針、方向を実現するために こんなものに取り組みたい
1. 防災対策と まちづくり	<p>敷根公園に東本郷区防災倉庫を置きたい(毛布などが入っている)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧町内全てが浸水域内であり、防災倉庫が浸水してしまうため安全な場所に確保する必要がある。 ・街中の商連駐車場の上に避難棟をつくる ・高台の避難地は民地のため、使用願いを行政で行って欲しい ・市は、高台への道づくりの費用を負担してくれるのか ・街中の人が集まる地域を中心に避難計画をつくったほうがよい ・街中へいざというとき防災公園として機能できる人々が集える場所がほしい。
2. 宿泊施設と 商店街の連携	<p>魅力があり、良いところであれば人が自然と訪れる。魅力づくりが大切</p> <p>自分たちはまちの魅力を知っているのだろうか</p> <p>観光客を親切にもてなすことはお金をかけなくてもできる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客に声をかけることが大切 ・市民が観光客をもてなすための意識改革が第一 ・まちをきれいにする ・ペリーロード、了仙寺だけではない魅力づくりをする ・駅からペリーロードというコースが定番 ・ペリーロードまでの道順を聞かれると、マイマイ通りを通るルートが教えやすく教えてしまうが、本当はまちのなかを通るルートを教えたい ・なまこ壁の通りをつくる ・旧町内には伊豆石の建物があり、紹介したい ・歩くルートを紹介すべき ・まちなかを歩いて楽しいまちにする ・観光客が安心して飲食できる店を紹介できるようにする ・自分たちも知らないお店がある ・新しいお店ができていく(普段通る道でも気づいかなかった) ・観光客に街中を訪れてもらうために、街中に向かう旅館を周る巡回バスを出すことも必要(旅館が協力してバスを出す) ・商工会、旅館組合、観光協会間で情報が共有されていない。もっと連携を図るべき。
3. まちなかへ 人を呼び込む！	<p>南豆製氷跡地にマルシェ（市[いち]）を造ろうとしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅 マルシェ ペリーロードの流れができる ・大川端通りは昔の旧町内の雰囲気を残した良いところなので通ってもらいたい ・観光のために来られた車をどこに止めてもらうかが重要である。駐車場に車を止めて、歩いてもらう。 ・Wi-Fi(無線LANの一つ)のインフラは、外国人観光客には必須である ・住んでもらえるまちづくりを目指す(働く場所は他にも良い) ・親子連れを街中へ呼び込みたい ・街中に児童館をつくり、ママ達が街中で買い物できる環境づくり ・空店舗の活用 ・空き店舗は併用住宅が多く、トイレが店舗と住居兼用が多いことなどの課題がある。(トイレをつくるための補助金がほしい) ・市役所跡地の検討委員会を早く立ち上げてほしい ・市民の意見を聞く場をつくってほしい

第3回は、災害後のまちづくりについて検討します。



今後の下田・本郷地域まちづくり会議の予定
第3回 平成27年 2月 4日(水)
 「災害後の復興まちづくりを考える」
会場：下田市役所 大会議室
時間：19:00～21:00
 見学が可能です。当日直接会場へお越しください。

お問い合わせはこちらまで

下田市役所 建設課
 都市住宅係
 TEL:0558-22-2219
 FAX:0558-27-1007
 E-mail : kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp